

§ 検査データの見方 §

	検査項目	基準値	単位	備考
肝	AST	13-30	U/L	肝臓に多く含まれる酵素で肝臓の細胞が破壊されると
	ALT	男 10-42	U/L	血中に漏れ出るため、数値が上がります
		女 7-23		
	γ-GTP (ガンマーGTP)	男 13-64	U/L	アルコールに敏感に反応し、アルコール性肝障害の指標となっています
		女 9-32		
ALP (アルカリホスファターゼ)	38-113	U/L	主に胆道の病気の指標となります	
臓	LDH (乳酸脱水素酵素)	124-222	U/L	すべての臓器にある酵素で細胞の変性や壊死を反映します
	Bil(T・D) (ビリルビン)	T 0.4-1.5	mg/dL	胆汁の主成分で黄疸のもととなる黄色の色素です
		D 0-0.3	mg/dL	
	TP (たんぱく)	6.6-8.1	g/dL	栄養摂取や吸収の状態をみています
	アルブミン	4.1-5.1	g/dL	
脂質	TCH (総コレステロール)	142-248	mg/dL	動脈硬化の危険因子で主に肝臓でつくられます
	LDL-cho	65-139	mg/dL	善玉コレステロールとよばれ、血管に付着したコレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぎます
	HDL-cho	男 40-90	mg/dL	
		女 40-103	mg/dL	
	TG (中性脂肪)	男 40-174	mg/dL	TGが増えすぎると肥満、糖尿病、脂肪肝の原因になります
女 30-174		mg/dL		
腎臓	UN (尿素窒素)	8-20	mg/dL	蛋白質の代謝産物で腎臓にてろ過排出されます
	CRN (クレアチニン)	男 0.65-1.07	mg/dL	筋肉の代謝産物で腎臓にてろ過排出されます
		女 0.46-0.79	mg/dL	
	IP (リン)	2.7-4.6	mg/dL	蛋白質の代謝産物で骨形成に役立ちます
尿検査 (蛋白・潜血)	(-)		腎臓や膀胱などの障害によって尿中に排出されます	
電解質	Na (ナトリウム)	138-145	mmol/L	体の水分調節、腎機能の指標になります
	K (カリウム)	3.6-4.8	mmol/L	
	Cl (クロール)	101-108	mmol/L	
膵臓	P-AMY (アミラーゼ)	15-46	U/L	膵臓病の診断や病気の経過観察に使用します
	Lipase (リパーゼ)	13-49	U/L	
心臓	CK (クレアチンキナーゼ)	男 59-248	U/L	心筋や骨格筋などの傷害を反映します
		女 41-153	U/L	
	NT-proBNP	0-125	pg/ml	心不全の程度を示す値です
甲状腺	TSH (甲状腺刺激ホルモン)	0.61-4.23	mIU/L	甲状腺ホルモンの分泌の状態をみます
	FT4 (遊離サイロキシン)	0.77-1.59	ng/dL	
糖尿病	空腹時血糖	73-109	mg/dL	血液中のブドウ糖のこと 全身でエネルギーとして利用され、食事や運動によって変化します
	食後血糖			
	HbA1c(NGSP)	4.9-6.0	%	過去1~2ヶ月前の平均的な血糖値を反映します
	尿糖			陽性の場合糖尿病が疑われます
貧血	S-Fe(血清鉄)	40-188	μg/dL	貧血かどうかを診る検査です 数値の低下状態と低下している項目により、 貧血の種類や多血症などの病気がわかります
	赤血球数(RBC)	男 435-555	×10 ⁴ /μL	
		女 386-492	×10 ⁴ /μL	
	ヘモグロビン(Hb)	男 13.7-16.8	g/dL	
		女 11.6-14.8	g/dL	
	ヘマトクリット(Ht)	男 40.7-50.1	%	
女 35.1-44.4		%		
血小板(PLT)	15.8-34.8	×10 ⁴ /μL	出血したときに、血を止める働きをします	
痛風	UA (尿酸)	男 3.7-6.9	mg/dL	高値の場合高尿酸血症と診断され、痛風などの原因になります
		女 2.6-6.9	mg/dL	
炎症	赤沈	男 2-10	mm/hr	感染症や炎症があると高値になります
	女 3-15	mm/hr		
	CRP (C反応性蛋白)	0-0.14	mg/dL	
	血液-WBC (白血球数)	33-86	×10 ² /μL	
他	Dダイマー	0-1.0	μg/ml	血栓の程度を調べる検査です



検査値を見る時の注意

- ① 検査値が基準値を外れていても必ずしも異常とは言えません。検査値の判断は、医師がすべてのデータと経過をみて総合的につけますから自分で考えず医師にわかるまで聞くことが大切です。
- ② 同じ検査項目でも測定方法・機種によって基準値が少し異なります。他の機関の結果と比較する場合は注意が必要です。
- ③ 検査データは健康の維持と増進のための大切な個人データです。大切に保管して置くと医師にも相談しやすくなります。

R8.4よりUA・TG・LDL-C・HDL-C基準値を専門学会がトライン臨床診断値へ変更